

## 教育委員会会議の概要（令和3年10月定例会）

◆ 日 時 令和3年10月26日（火）午後2時00分から午後3時11分まで

◆ 場 所 教育局 第1会議室

◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	阿 子 島 佳 美	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録承認 9月定例会

3 議事録署名委員の指名 梅 田 委 員

4 報 告 事 項

（1）市議会報告について

（総務課長 説明）

資料に基づき報告

川 又 委 員 資料で「市長答弁」と記載しているところは市長が答えたと分かるが、そうでない答弁は、誰が答えたのか分からないので記載したほうがいいと思う。

総 務 課 長 代表質疑及び一般質問には教育長のみ出席しているため、市長答弁と書いていないものについては教育長が答弁をしている。一方、決算審査特別委員会・分科会については、関係課長または教育長が答弁しているため、今ご意見いただいたように、教育長答弁以外の部分については、課長答弁など分かるように記載していきたい。

梅 田 委 員 今回2名の議員から、通常学級の定員の引き下げだけではなく、特別支援学級の定員の見直しという意見が上がっている。仙台市が6人以上の学級に対して支援員や非常勤講師を充てていることは十分承知しているし、他の自治体ではやっていないとこ

ろが多いので、それ自体はいい施策だと思っている。ただ、支援員や非常勤講師は年度で替わるなど長続きしづらいため、学級担任とは異なる。おそらく仙台市でも特別支援学級に入る子どもたち、入級を希望する子どもたちは増えていると思うし、学級も増えているのではないかと思う。そうした現状の中、一気に学級の定員を引き下げるとするのは、もちろん本来は国がやるべきことであり、国に要望することは大切なことだと思うが、単独で行っているような市町村もないわけではないと思うので、ぜひ仙台市としても今後に向けた検討を進めていただきたいし、なお強く国への要望を上げていただきたいと思う。

後藤委員 コロナ対策について、感染状況がだんだん落ち着いてきたところで、これからの規制緩和や日常を取り戻す方向への動きを考えていただきたいと思う。感染者が少なく、ワクチン接種率が高いにもかかわらず、小中学校では全校集会ができない状況が続いている。おそらく社会一般と比べても学校は強い規制を受けていて、その状態が続いている。子どもたちを守りたいという気持ちは分かるし必要だと思うが、これから先、本来であれば全校で集まって行う卒業生を送る会や新入生を迎える会など、そういった行事をこの状況でどうするのか、規制を緩めて日常のことはやる方向で考えていくのかなど、今年はどうするのかぜひ考えていただきたいと思う。

学校教育部長 議会での答弁の際には修学旅行等は原則延期ということを考えてもらっていたが、現在は感染状況が落ち着き、基本的には訪問先の状況が大丈夫であれば、修学旅行等を実施していただくなど、感染状況に応じた対応を取っている。ただ、今後いわゆる第6波が来るのかどうかの状況の見極めや、ワクチンを接種している方と接種していない方がいる状況で、どこまで規制を緩められるか、そのあたりを感染状況等も踏まえながら検討していかなければならないと考えている。

## (2) 文部科学省「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について

(教育相談課主幹 説明)

### 資料に基づき報告

後藤委員 新型コロナ感染回避による不登校というのは、感染不安で登校できない人がカウントされているのか。また、不登校の人数について、学校に行けるようになった人の分類で、児童遊園の杜やステーションに通えるようになったなど、教室に入れなくてもどこかに行けていれば、不登校にカウントはされず、学校に通学できるようになったとカウントされているのか教えてほしい。

教育相談課主幹 本人や家族が感染を回避したい、感染が不安という事情であれば、新型コロナ感染回避ということで欠席ではなく出席停止として扱っている。

再登校について、ステーションを含めた別室登校については、学校への登校となるため出席扱いとなる。また、児童遊園の杜、杜のひろばへの通級については、指導要録上は出席扱いとなるため、書式の中ではそのようにカウントされるが、出席かどうかということについては、出席には当たらないということになる。再登校の定義はなかなか難しく、現時点ではその判断をする中で、例えば全く登校できなかった子が週1回登校できるようになった、週1回だった子がより多く登校できるようになったという状況も含め、毎日登校する状態ではなくても、再登校できたと捉えている。

後藤委員 そうすると、仙台市で受皿も広げたことにより、様々な形で学校に関わることができるようになった子どもが増えたため、再登校率が上がったと受け取っていいのだろうと思う。

阿子島委員 いじめの発見のきっかけについて、以前はアンケートや周りの先生方が見かけるということが多かったが、今回は本人からの訴えの割合が上がってきており、とてもいいことだと思う。子どもたちのいじめに対しての認識が広がり、自分から担任の先生や周囲の話しやすい先生に声をかけることができる環境が学校全体で整ってきているのかと感じたので、今後もより一層先生方が細かく子どもたちに目を向けていけるような環境づくりを継続していただきたい。

梅田委員 暴力行為についてなぜこんなに多いのかと思ったが、先ほど報告があったように、小さなことも拾い上げているということで、いじめについても、学校の中できちんとした対応が進んでいるのではないと思う。数が多いこと、母数が多いことを駄目なことだとは思わないので、説明を聞いてなるほどと思った。今後も対策を進めていただけたらと思う。

ただ、不登校に関しては、平成 28 年度から徐々に増えてきており、特に小学校で増えてきている。今回の文科省調査の報告データの中には、何年生の段階で何が原因だったかという設問の結果もあったように思う。その中では、学習の遅れや先生との相性の悪さを挙げていた子どもたちもかなり多かったようなので、そのことをどう捉え、どのように未然防止に取り組んでいくかは、これからも検討していただく必要があると思った。

また、子どもたちからのいじめの気づきということで、本人からの訴えや周りの子からの訴えが増えているということはとてもいいと思うが、スクールカウンセラーを各校に配置している中で、スクールカウンセラーが発見した、あるいはスクールカウンセラーへ相談したという件数が、ほとんど伸びていないのはどうかと思う。スクールカウンセラーに相談した件数は、小学校では下がってきており、中学校でもかなり少ない状況にある。コロナ禍の影響もあるかと思うが、ひょっとすると、スクールカウンセラーなど担任以外に相談すること自体をよしとしないといったことが、学校の中にあるのではないだろうか。学校だけの問題ではなく、スクールカウンセラーと学校の連携の問題にもなるかもしれないが、そのあたりをもう少し検討いただき、スクールカウンセラーがもっと子どもたちや保護者の方から気軽に相談を受けられるようになれば、せっかくの施策がより生かされていくと考える。

花淵委員 不登校の子どもたちの学年ごとの数のデータはあるか。何年生が多い、こうなると増えてくる・減ってくるなど、仙台市の傾向やどの学年から手当てをしていく必要があるかといったデータがあれば対策にも生かせると思うので、その辺りの分析をしていれば報告いただきたい。

教育相談課主幹 今はないため、後ほど報告する。一般的には、学年が上がるごとに不登校数は増えており、特に中 1 ギャップということで、小 6 から中 1 になったところで大きく跳ね上がる傾向にある。ただ、先ほどご指摘があったように、小学校の低学年から不登校数が増加してきており、中 1 ギャップで急に上がるところもなだらかになってきている状況も見られる。後ほど、そういったところも含め、説明させていただければと思う。

川 又 委 員 調査結果のポイントの概況について、増減の話が書いてあるが、この調査結果全体を見ると、増減が問題ではなく、仙台市は各調査項目の1,000人当たりの件数が全国的と比べかなり多いというのが一番のポイントだと思う。それが書かれていないと概況にならないと思う。増減はその次の問題で、分析する必要はないが、データを見る限りでは、1,000人当たりのそれぞれの件数が上位に入っているということが、データとしては一番の重要なポイントだと思う。まとめる際書きにくいかもしれないが、おそらくその部分を概況として書かざるを得ないと思う。

学校教育部長 他都市との比較等を行う際、全体の数というよりも、児童生徒数1,000人当たりの指数が比較する指数としては非常に重要となっている。本市においては、不登校件数は下がっているが、いじめ認知件数、暴力行為の発生件数については、政令市中2番目の数値ということで、かなり高い数値となっている。要因の一つとしては、まずは把握をしていくことが早期対応の第一歩であり、比較的軽微なものもなるべくカウントする意識を各職員等で持ってきたものと考えている。

川 又 委 員 分析の問題ではなく、統計を取り、数字がこう出たら、それをきちんと重要なところから読み取っていかねばならず、それを書かないと概況にはならないのではないかとということである。増減の傾向は相対的なもので、もともと低いところで増減をしているのと高いところで増減をしているのでは全然意味が異なり、仙台市の場合は件数が非常に多いところで増減をしているので、まずは非常に多いということが第一のポイントで、それが概況の最初に来ないといけないと思う。

学校教育部長 概況のところで、経年変化を比較するという意味で、全体の数字について記載しているが、おっしゃられるとおり、1,000人当たりの発生件数の他都市比較、推移等も非常に重要なところなので、次年度以降、資料を作成する際に検討させていただきたい。

川 又 委 員 要するに、一言で言うかどうかということであれば、やはりかなり件数が多いということになると思うので、重要性に応じた順番で項目をまとめていかなければならないと思う。この資料以外に、報告書などもっと詳しくまとめた資料は作成するのか。

学校教育部長 現時点においては、こちらの資料で公表させていただき方向で整理している。

川 又 委 員 分析や統計の取り方は都市ごとに異なると思うが、数字が出た以上はまずはきちんと読まないといけないと思う。仙台市では、読み解くところの一番重要なポイントはやはり数が多いということかなと思うので、よろしく願います。

山 田 委 員 資料を見ていて、いじめや不登校、暴力行為というものがニュースや世の中の話題として出ていることは認識しているが、根本的に、これらの原因については国として把握はされているか。もちろん複雑だったり複数あったりすると思うが、例えば企業でいうと、何か問題が起きたらその原因は何で、その原因に対してどんな対策をして、その対策に対してどれだけ効果があったかを追求することが普通だが、このいじめ、不登校、暴力行為についても、原因や対策、効果がどのくらい出ているかは示されているか。

教育相談課主幹 それぞれの要因等についても調査は行っているものの、要因が1つに限定されることは考えづらく、多様化していたり、様々な要因が重なっていたりと、なかなか正確にお答えすることは難しいというのが現状である。ただ、傾向として、こういった理由を挙げている児童生徒、あるいは学校の職員としてどう捉えているかなど、調査の中で把握しているものもあるので、それを後ほど説明することであれば可能である。

山 田 委 員 説明は結構であるが、その流れが分かればというか、仙台市として何を問題としていて、それに対して様々な対策を取られていると思うが、それが効果として出ているのかどうか数字として分かるのであれば、教えていただければと思う。

総 務 課 長 毎年度、各事業について、その結果と評価を取りまとめた資料があるので、そちらの中で後ほどお示しさせていただきたいと思う。

### (3) 仙台市社会教育委員の会議の答申について

(生涯学習課長 説明)

#### 資料に基づき報告

阿 子 島 委 員 社会教育委員の皆様がコロナ禍の中、調査を行い、答申を提出していただいたことに感謝したい。人生100年時代と言われている中、障害のあるなしにかかわらず、全ての人が学校を卒業した後も生涯学習を続けられるよう、行政、学校、企業、その他市民活動組織等と連携、協働していくことがますます必要となってきている。また、それぞれの活動にあたり、ボランティア等の支援者を育てていくことも大切だと思う。さらに、市民センターなど身近な施設が使えることはもとより、活動の場に行くことのできない人たちのためにも、今後はさらにICT等を活用した学習の機会を充実させていただけよう、取り組んでいただきたいと思います。

生涯学習課長 今回の答申については、障害のある方と貧困にある方、対象は違うが、大きく2つのポイントがあると考えていた。

1つ目のポイントは、お話しいただいたICTを利用したオンライン学習である。対人関係が難しかったり得意ではない方、また、出向いていくことが難しいという方も相当数いらっしゃると思う。市民センターのWi-Fi環境が整備され、オンライン講座を運用する職員も大分慣れてきたことから、ICT技術を活用した学習を、できるところから進めていきたいと思う。

もう1つのポイントは、支援者である。生涯学習支援センターでは、若い青年教室という知的障害の方向けの講座を行っているが、その支援者は固定されており、当事者の数を増やすことなども難しくなっている。こうした障害のある方や貧困にある方のサポートは、支援者がマンツーマンで対応しなければならない部分もあるので、そういった意味では、まずは市民理解を得ながら支援者を募り、事業の継続化を図っていくことが重要であるため、その点しっかりと考えていきたい。

梅 田 委 員 障害のある方や貧困にある方など、生涯教育に結びつきにくい方に焦点を当てて答申をまとめていただいたことは、非常にありがたいと感じている。ぜひこの答申を生かしていただき、次の世代の支援者を増やしていくことと、特に近年増えている知的障害や発達障害のある方々についても年齢構成等を調べていただきながら、どこに焦点を当て、どのような講座を設けていったらいいか検討いただくとありがたい。そこから少しずつでも枠を広げていただき、学びにつながれて良かったという方が増えていくようにしていただければと思う。

また、ICTの話題もあったが、やはり直に関わる良さもあるので、そのあたりも組み合わせながら、よりよいものを検討していただきたいと思います。

生涯学習課長 今回の答申や様々な議論に携わってきた中で、教育分野と福祉分野との連携は欠かせない部分であり、今まで以上に取り組んでいかなければならないと思う。

5 付 議 事 項

第 23 号議案 仙台市公民館運営審議会委員の委嘱等について

(生涯学習支援センター長 説明)

原案のとおり決定

6 閉 会